

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	よしのが丘				公表日	令和8年2月18日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動内容に合わせた、グループの人数、使用する療育室の調整を行っています。 ・パーティション等を活用し、周囲からの刺激を減らす等、環境調整に努めています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・職員の配置は、配置基準(支援者1名に対して児童5名)を満たしています。また、専門職(言語聴覚士、公認心理師、理学療法士)を配置し、専門的な助言を得て支援に活かしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・建物の構造は平屋造りとなっており、階段や段差はありません。また、視覚ツールを活用することで、お子さまにとっても棚や備品の位置がわかりやすく、自ら使いやすい環境づくりに努めています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・療育室、トイレ等、毎日清掃、消毒、換気を行い、清潔な環境づくりに努めています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・お子さまの状況や必要性に応じて、個室の利用や衝立(ついたて)による仕切りを準備し、必要に応じて、落ち着いて一人で過ごせる環境を整えています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・役職や経験に関わらず全職員が参画できるよう、日々のミーティングで意見交換を徹底しています。現場での気づきを具体的な目標設定や改善案に反映させる体制を構築しており、チーム全体でPDCAサイクルを回すよう努めています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・ご家族からの意見は、早急に対応できるようミーティングの場で話し合い、改善に繋げています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・チーム会議、日々のミーティングの場では管理者やチーフだけでなく、職員全員が意見できる運営に努めています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・外部研修や勉強会に加え、オンライン学習(スペシャルラーニング)を導入し、場所を問わず学べる環境を整えています。全職員が支援に必要な専門知識やスキルを主体的に習得できるよう、多様な研鑽の機会の確保に努めています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・ご家族や本人の聞き取りと合わせて、担当者を中心としてチーム職員や専門職の意見を聞き、多角的な視点で客観的に分析するよう努めています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・担当者を中心に、チーム職員、専門職の意見を聞き、お子さまの将来を見据えたうえで、今の支援の在り方について検討しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・WISC-Vや国リハ式(S-S法)などの検査ツールを必要に応じて活用し、お子さまの特性を客観的に把握しています。あわせて、日々の活動の行動観察も行い、多角的な視点から一人ひとりに最適な個別支援計画の策定に繋げています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・放課後等デイサービス計画は、ガイドラインに基づき、「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」について、児童発達支援管理責任者、担当者を中心に話し合い、項目を設定して支援内容を検討しています。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・お子さまの興味・関心、課題や実態に合わせて、チームでプログラムを検討しています。また、プログラム実施後にはミーティングの場で意見交換を行い、改善に努めています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・月にチームで意見交換を行い、お子さまの実態に応じて再検討し、さまざまなプログラムを実施しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・支援開始前には必ず打ち合わせを行い、活動のねらいや個別の支援方法、役割分担を確認しています。また、送迎等の都合により全員での実施が困難な場合も、児童発達支援管理責任者と担当スタッフが密に情報共有を図ることで、常に連携の取れた支援を徹底しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援終了後、必要に応じて担当職員と児童発達支援管理責任者で課題や改善事項の振り返りを行っています。また、翌日の全体ミーティングにおいても前日の支援内容を共有する場を設け、チーム全体で支援の質の向上と情報の周知徹底に努めています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・活動中や選択遊びの内容等、事業所で過ごす時間の中で、お子さまが選んだり、友だちと話し合っ決めてたりできる機会を作っています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者やケース担当者が会議に参画しています。お子さまの状況を正確に共有し、関係機関との緊密な連携に基づいた一貫性のある支援に繋がっています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要に応じて関係機関と連携を図りながら、お子さまやご家族が安心して過ごせるように努めています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校の先生方の状況に合わせ、電話や書面等で効率的な連絡調整を行っています。行事予定や下校時刻、緊急時の対応などを適切に共有し、学校と連携してお子さまを安全に見守る体制を整えています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			・児童発達支援事業所との連携は図っていますが、保育所等との連携には課題を感じているため、連携強化に努めます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・他事業所で実施されている公開療育への職員参加や児童発達支援センターで開催されている研修会等を活用して、取り組みを学んだり助言を受けたりしています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		・平日の放課後は時間的制約から地域交流が困難な現状にありますが、土曜日や長期休暇には公共施設や屋外広場を積極的に活用しています。同法人のネットワークを活かした合同夏祭りや合同スポーツ活動などを実施しており、所属校以外の児童とも触れ合える多様な交流機会の創出に努めています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・こども部会に継続的に参加しています。法人として「児童発達支援センター会議」にも参画しています。地域全体の支援ネットワークと密に連携し、最新の知見や情報を日々の支援の質の向上に活かしています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・ご家族向けにペアレント・プログラムを実施し、ご家族からの子育ての相談においても、ペアレント・プログラムの視点について情報提供を行っています。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 運営規定や利用者負担等については、契約時にご説明しております。支援プログラムについては、法人のホームページで公開しております。 利用者負担については、年度途中で鹿児島市における利用者負担助成の見直しがあったため、事業所としてもご家族に向けて説明会を行いました。ご不明点などありましたら、随時説明させていただきますので、お知らせください。 	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画については、お子さまの良いところに着目した前向きな計画の作成を行い、ご家族への丁寧な説明に努めています。必要に応じて見直しを行い、同意を得ています。 	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 日々の引継ぎ、個別相談会の案内、必要に応じて個別相談、電話相談を随時実施し、ご家族が安心して過ごせるよう助言や情報提供に努めています。 	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 同法人内の他事業所と合同でご家族会を実施しています。また、ご家族ときょうだい児が楽しく過ごせる機会として、きょうだい児支援会を実施しています。 	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ご家族からの苦情に対しては早急な対応に努め、第三者委員会にて対応が適切であったが判断をいただいています。 	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との情報交換については事前にご家族から了承を得てから実施しています。 個人情報記載書類について、施錠できる書庫にて保管管理をしています。 	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 法人全体で「秋まつり」を開催するなど、地域住民の方との交流の機会を大切にしています。事業所単独での実施が難しい場合も、法人内のネットワークを活かすことで、地域に開かれた事業運営の継続に努めています。 	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 各種マニュアルの策定、職員会議での研修、防犯訓練の実施等を実施し、各種マニュアルはご家族閲覧用に事業所玄関に設置しています。 ご家族へはおたよりで避難訓練の予定をお知らせし、実施した内容についてはご家族へ説明しています。 	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 事前に服薬等の健康状態については確認を行い、服薬が必要な際は、服薬依頼書をご家族に記入していただき、服薬時には複数の職員で確認し、誤薬の防止に努めています。 	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハット事例が発生した際は速やかに記録を作成し、事業所内で再発防止策を検討しています。また、法人全体でも事例を共有することで、他事業所の事例からも学び、多角的な視点からより安全な支援体制の構築と実施に努めています。 	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修の実施に加え、日頃の言葉遣いやお子さまの名前の呼び方、接し方など、虐待に繋がる「小さな芽」を早期に摘み取る意識の共有を徹底しています。職員同士で互いの関わりを振り返り、チーム全体で権利擁護と虐待防止に取り組んでいます。 	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 基本的に身体拘束を行うことはありません。お子さまの気分が高揚し、怪我や事故の恐れがある場合は、あらかじめご家族さまと協議した方針に基づき、刺激の少ない場所へ誘導するなど安全確保を最優先に対応します。 	